

(仮称)

江戸川区角野栄子児童文学館

基本構想



令和元年(2019年)9月
江戸川区
角野栄子



目次

Ⅰ プロローグ

1. 児童文学館の開設に向けて (江戸川区長 斉藤 猛).....03
2. 「思い出は 魔法」 (児童文学作家 角野 栄子).....04
3. 角野栄子氏プロフィール.....05
4. 確認書.....06

Ⅱ 基本理念

1. 施設の目的.....08
2. 施設の機能とコンセプト.....09

Ⅲ 基本方針

1. 角野栄子氏の功績を称える機能.....11
2. 「児童文学」に親しむ機能.....12
3. 想像力や創造力を育む体験機能.....13
4. 角野作品の世界観と調和した公園づくり.....14
5. イメージ図.....15
6. 管理・運営について.....16

Ⅳ 施設整備

1. 施設の立地場所.....19
2. なぎさ公園内の写真.....20
3. 施設の敷地など.....21
4. 施設の敷地などの写真.....22
5. 設計パートナーについて.....23

Ⅴ 広報・PR

1. わくわくイベント.....25
2. 情報発信.....26

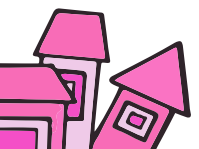
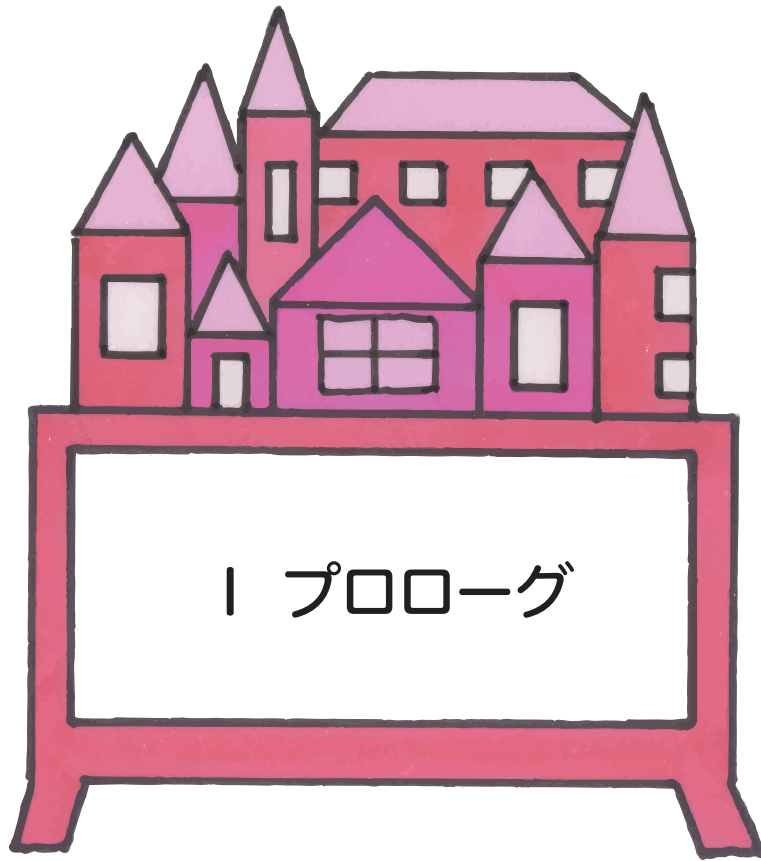
Ⅵ スケジュール

1. 開設スケジュール.....29

Ⅶ 検討経過

1. 検討メンバー.....31
2. 経過及び検討会議.....32







児童文学館の開設に向けて



江戸川区は、23区の東部に位置し、三方を河川と東京湾に囲まれた水とみどり豊かなまちです。そこには、温かい思いやりの心を持った70万人の区民が暮らし、昔ながらの人情味あふれる下町の生活がたくさん残されています。

また、区内には数多くのコミュニティが存在し、文化芸術活動やボランティア活動、自治活動が積極的に行われ、さまざまな世代の地域貢献活動を通じて江戸川区ならではの区民文化が育まれています。

こうした中、本区は長期計画において、区の将来都市像を「生きる喜びを実感できる都市」と定めるとともに、これを実現するための基本目標の一つとして「学びと協働で区民文化をはぐくむふれあいのまち」を掲げ、江戸川区らしい文化の創造に取り組んできました。

『魔女の宅急便』などの原作者として知られる児童文学作家・角野栄子さんは、幼少期から20代前半までを江戸川区北小岩で暮らし、区立中小岩小学校に通われていました。

角野さんは、「幼い頃に見たり感じたりした江戸川区の風景はいつまでも忘れることはなく、その体験や情景が時に作品に表現されている」と語られ、ふるさと江戸川区への想いを今でも大切にされています。

角野さんの作家デビューは35歳のとき。以来、数多の名作を世に送り出し、数々の文学賞を受賞。そして、2018年には児童文学のノーベル賞ともいわれる「国際アンデルセン賞作家賞」を受賞されました。区は、この偉業を称え「区民栄誉賞」を創設し、記念すべき最初の受賞者として角野さんを表彰させていただきました。

角野さんの偉大な功績を多くの方々に知っていただくとともに、未来を担う子どもたちがその世界観を享受できるような施設をつくろうと今回の児童文学館建設構想がスタートしました。読む人に夢や希望を与える角野さんの作品を数多く配置し、子どもたちが児童文学に親しみ、豊かな想像力を育む場となることを目指した児童文学館です。

建設予定地の「なぎさ公園」は、園内のいたるところに四季折々の花が咲き、樹木や芝生などの緑に囲まれた素晴らしい環境です。この風景と一体となった施設を建設し、多くの区民の皆さんに愛され、さらには全国、世界の子どもたちが集う施設にしていきたいと考えています。

江戸川区がこれまで築き上げてきた区民文化に、世界で活躍する角野さんの世界観や想いが込められた児童文学館が加わることで、さらに幅広い「江戸川区の文化」が創造されることを期待しています。



江戸川区長 齊藤 猛





「思い出は 魔法」



わたしの思い出は、何と言っても江戸川の土手です。

土手の上からゴロゴロと転げおりたり、ゴザに乗って、アラジンの魔法の絨毯のつもりですべりおりたり。春にはレンゲの花かんむりを作ったり、長く長く編んで縄跳びをして遊んだりしました。夏にはもちろん江戸川で泳ぎました。水際に手をつっこんで、とろ〜んと手触りのいい粘土をまるめて、玉転がし。砂利道がアスファルトになると、ろう石で丸をかいて「けんけん ぱっ」。近所の子もたちがみんな一緒に、遊びは毎日、日が暮れるまで続けました。あたりが暗くなると、低空で飛ぶコウモリをなんとか落とそうと、棒で追い回したりして、本当によく遊びました。

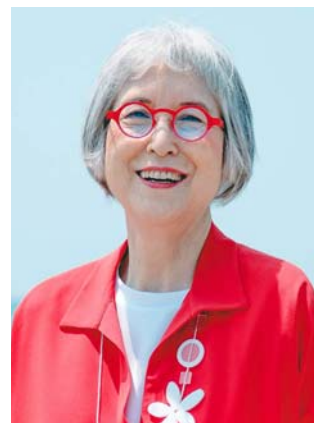
それともう一つ、遊びと同じほど大事な思い出があります。それはお話です。父が語ってくれた『桃太郎さん』『かちかち山』『ジャン・バルジャン』……。

自分で読んだ『小公女』『ハイジ』『風の又三郎』……。並べたらきりがありません。頬がカッカするぐらい夢中になりました。このようなお話が、戦争の辛く厳しい日々をどれだけ慰めてくれたことでしょう。

今でも、江戸川の土手を走る風、草の匂い、また、ワクワクしながら読んだ本のことを、ふっと思い出すことがあります。すると、わたしの心は、昔に向かって走り出します。そこには子どものわたしが待っていてくれて、わたしとわたしが一緒に遊び始めるのです。

この度、「角野栄子記念館」を作っていただくことを大変光栄に存じております。しかも思い出濃い江戸川のほとりです。2022年度完成のこの館から、子どもたち一人ひとりが自由に本に触れて、物語世界が持つ大きな力を感じてほしい。そして、たくさんたくさん思い出を作ってほしい。思い出というと、もう過ぎ去ったことと思いがちですが、決して過去のものではありません。これから生きていく力になり、その人の一生を豊かなものにしてくれるのです。

思い出は、誰でも持つことのできる魔法なのです。

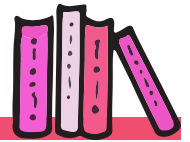


児童文学作家 角野 栄子





角野栄子氏プロフィール



- 1935年(S.10) 東京都内生まれ(1月1日)
3歳から23歳まで江戸川区北小岩で過ごす。
(戦時中は山形県や千葉県に疎開)
江戸川区立中小岩小学校出身。
- 1957年(S.32) 早稲田大学教育学部英語英文学科卒業後、出版社勤務
- 1959年(S.34) 自費移民としてブラジルへ渡り、サンパウロ市に約2年間滞在
- 1970年(S.45) 『ルイジニョ少年ブラジルをたずねて』で作家デビュー
- 1982年(S.57) 『大どろぼうブラブラ氏』で産経児童出版文化賞大賞
- 1984年(S.59) 『わたしのママはしずかさん』で路傍の石文学賞
- 1985年(S.60) 『魔女の宅急便』で野間児童文芸賞、小学館文学賞
- 1986年(S.61) 『魔女の宅急便』でIBBYオナーリスト文学賞
- 2000年(H.12) 紫綬褒章受章
- 2014年(H.26) 旭日小綬章受章
- 2016年(H.28) 『トンネルの森 1945』で産経児童出版文化賞ニッポン放送賞
- 2018年(H.30) ※「国際アンデルセン賞 作家賞」受賞
- 2019年(H.31) 「江戸川区区民栄誉賞」受賞

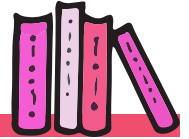
※「国際アンデルセン賞」

1953年国際児童図書評議会 (IBBY) により創設された子どもの本の国際的な賞。世界的児童文学の権威者からなる国際選考委員会で決定し、2年に1度開催される世界大会で賞状とメダルを授与。作家賞の日本人受賞者は角野栄子氏を含め3人。選考水準の高さから「児童文学のノーベル賞」ともいわれ、子どもの本の分野における最高の国際的な賞として、世界中の児童文学の質の向上にはかり知れない影響を与えている。





確認書



「(仮称)江戸川区児童文学館」開設に向けた 相互連携・協力に関わる確認書

江戸川区(以下「甲」という。)及び角野栄子氏(以下「乙」という。)は、「(仮称)江戸川区児童文学館の開設」(以下「本開設」という。)について、以下の事項を相互に確認するとともに、その実現に向けて連携・協力して取り組むこととする。

(概要)

第1条 甲は、「国際アンデルセン賞 作家賞」を受賞した区ゆかりの作家、角野栄子氏の夢や想像力あふれる世界観とその功績を後世に継承するとともに、児童文学の素晴らしさを広く発信することを目的とした(仮称)江戸川区児童文学館を開設するものである。

(開設目標)

第2条 甲及び乙は、本開設を2022年度中に目指すものとする。

(役割)

第3条 甲は、事業主体として本開設を行うものとする。
2 乙は、専門的見地から本開設全体に必要な提言・助言等を行うものとする。
3 甲及び乙は、本開設を進める上で詳細について協議し、相互連携・協力のため別途契約を結ぶこととする。

(その他)

第4条 本書に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度、甲及び乙が協議の上、決めるものとする。

本書締結の証として本書2通を作成し、双方記名の上、各1通を保有する。

令和元年5月23日

(甲) 江戸川区
区 長

齊藤 猛

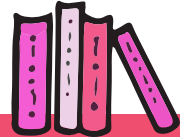
(乙) 角野栄子







施設の目的



- 角野栄子氏の偉大な功績と、その物語の世界観を、区の誇る文化として継承し、児童文学の素晴らしさを発信していく
- 子どもたち自身が自由に「本」と親しむ場をつくる
- イベントや体験を通して、子どもたちの想像力と創造力を育む場にする



角野栄子氏は、2018年8月、児童文学のノーベル賞と言われる国際アンデルセン賞作家賞を受賞されました。

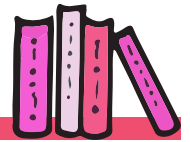
幼少期から青年期までを江戸川区の北小岩で過ごした角野氏にとって、当時の風景やさまざまな経験は、今でも忘れられない記憶として心のなかに残っていて、自身の作品にも影響を与えているそうです。

区では、角野氏の想像力あふれる夢いっぱいの世界観とその功績を、後世に伝えていくとともに、児童文学の素晴らしさを発信していきます。また、子どもたち自身が自由に「本」を選び、手にとって、「本」に親しむことで、夢のふくらむ豊かな想像力や創造力を育むことができる場を創りだしていくことを目的として、児童文学館を開設いたします。

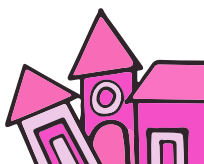




施設の機能とコンセプト



前述の目的を果たすために、本施設は大きく分けて、3つの機能を持ちます。また施設整備のコンセプトとして、角野作品の世界観と「なぎさ公園」の景観が調和し、公園全体が居心地のよい空間となるよう創っていきます。



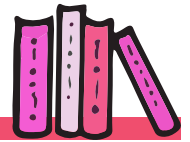


III 基本方針





① 角野栄子氏の功績を称える機能



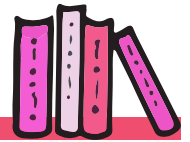
角野栄子氏の功績を多くの方が知ることができるように、経歴や資料などを紹介。また、驚きと魅力に満ち、読む者に力を与えてくれる角野作品の魅力と世界観をたっぷりと感じられるようにします。

基本的内容	具体的なイメージ案
角野氏の経歴や功績、人物などが子どもたちにも分かるように、さまざまな資料を展示して紹介します。	角野氏が育った江戸川区
	角野氏の受賞歴（国際アンデルセン賞作家賞ほか）
	角野氏のお部屋（仕事部屋を模した空間に、子どもたちは自由に出入り、たとえばお話を書くといった創作活動ができる）
	角野氏を紹介する資料（例：草稿）やファッション（例：メガネ）など
角野作品を深く知り、その世界観を体感できる、工夫を凝らした紹介をします。	角野作品紹介（誕生秘話など）
	『魔女の宅急便』（原作本の世界観：コリコの町のイメージ）など、作品の世界観を表現
	プロジェクションマッピングなどデジタルコンテンツの活用など
	キャラクターの活用など
魔女とおばけに注目したしつらえなど	
児童文学館オリジナルのロゴマークを作り、さまざまな活用をします。	児童文学館に関するあらゆる部分に標記（例：収蔵本などに押すスタンプなど）
角野氏に関連する幅広い資料や「本」などを収蔵します。	資料などの収集と貴重な資料保管を想定した設備も備える





② 「児童文学」 に親しむ機能



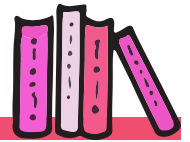
角野作品はもとより、数々の児童文学作品に触れられる場所を作ることで、子どもたち自身が、自らの意思で「本」を選んで読みたくなるような魅力的な専用空間を作ります。

基本的内容	具体的なイメージ案
子どもたちが、自らの意思で「本」を選び、ゆっくりとくつろぎながら自由に本を読む専用空間を作ります。 角野氏イメージ図：15 頁	本棚に囲まれている空間（コリコの町の雰囲気）
	本棚でエリアを分けたり、本棚そのものに仕掛けを作ったりユニークな形のイスを配置するなど
	年2～3回、模様替えができるように可動式にするなど
	寝ころがってもよい自由な空間など
	保護者の目が届く構造に
	屋外の芝生広場でも本が読めるように、ベンチやあずまやなど
「本」は、数々の児童文学作品を揃えます。本棚に並ぶ本は、月替わりで入れ替えて、目新しさを演出します。本は、館内で読んでもらうようにします。	角野氏の作品全て（外国語版も）
	国内外の児童文学作品
	小学生までを対象とした本が中心
	物語や絵本のほかに、図鑑など知的好奇心を育む本も選書する
「本」の販売コーナーを作ります。	角野作品など、児童文学作品





③ 想像力や創造力を育む体験機能



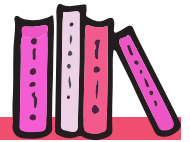
児童文学作品に関連した各種イベントなどを行い、子どもから大人まで一緒にふれあいながら、想像力と創造力を生み出す機会をつくります。

基本的内容	具体的なイメージ案
児童文学作品の世界を体感し、学ぶことができる仕掛けや各種イベントなどを行います。	お話し会や映画会などのイベント
	かぶりものなどで、作品キャラに扮する変身コーナーなど
	年に一度のイベント（例：ジジの祭り）など
子どもたちの豊かな想像力と創造力を育むため、創作活動や工作教室などを行います。	角野先生のお部屋（創作部屋）でお話づくり
	お絵かき、工作、お話づくり教室、ぬり絵など
	お芝居（衣装や台本）など
角野氏の巡回企画展やさまざまな児童文学作品に関連した企画展示を行います。	記念撮影（例：キキのホウキ、背景スクリーン）など
	角野栄子展（魔女や作品テーマ）など
収蔵設備を整えたバックヤードを作ります。	さまざまな児童文学作品に関連した展示など
	イベント資材などのバックヤード





④ 角野作品の世界観と調和した公園づくり



角野作品の世界観と「なぎさ公園」の自然（木々の緑や、色とりどりの季節の花々）とが調和した雰囲気を作ります。多くの子どもたちや大人の方々に愛される場とし、何度も訪れたいくなるような場所をつくりま

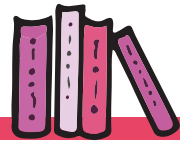
基本的内容	具体的なイメージ案
「展望の丘」の樹木はそのまま活かし、広場の雰囲気と調和のとれた建物を造ります。	既存の樹木を考慮した配置
	建物・外構ともに、周囲の自然と調和した仕様
	内装は角野氏の世界観（イメージカラー：イチゴ色）を表現
遊具広場は改修し、角野作品の世界観を表現するような空間づくりを検討します。	作品の世界観をイメージした変わった形や色のオリジナル遊具の整備など（例：ホウキのシーソーなど）
ゆったりと過ごせるカフェ機能などを備えます。	飲み物やオリジナルグッズの販売
施設整備予定位置を結ぶ動線部分や周辺部分などについても改修を検討します。	利用者や施設職員にとって使いやすい施設レイアウト
「パノラマシャトル」や「なぎさポニーランド」など、なぎさ公園の既存機能との連携を検討し、相互にぎやかな雰囲気づくりをします。	児童文学館整備に合わせた仕様の変更、運営内容での連携

※以上の基本的内容を実現するため、今後、公募を予定している設計パートナー（23頁参照）と角野氏・区で協議を重ね、具体的なデザイン・設計を進めていきます。



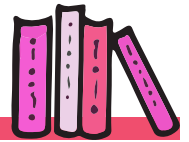


イメージ図



案：角野 栄子氏 絵：くぼしま りお氏

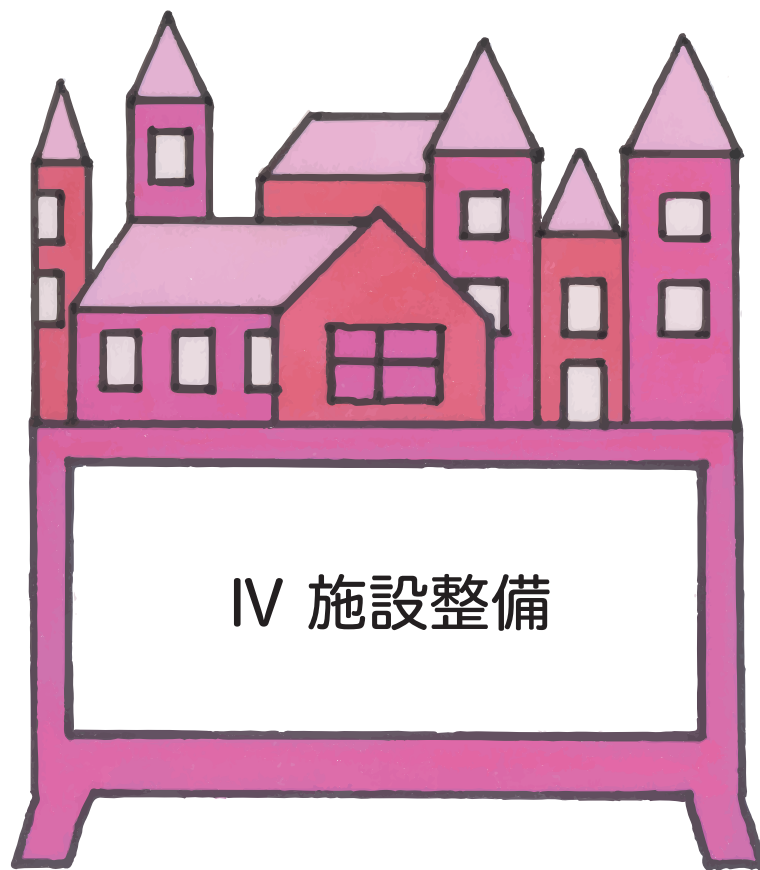




運営方式、組織体制、人員、開館日時、利用料金などについては、今後基本設計を進め、施設の規模や機能など、詳細がより具体的になってくる段階で検討していきます。





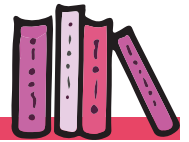


IV 施設整備





施設の立地場所

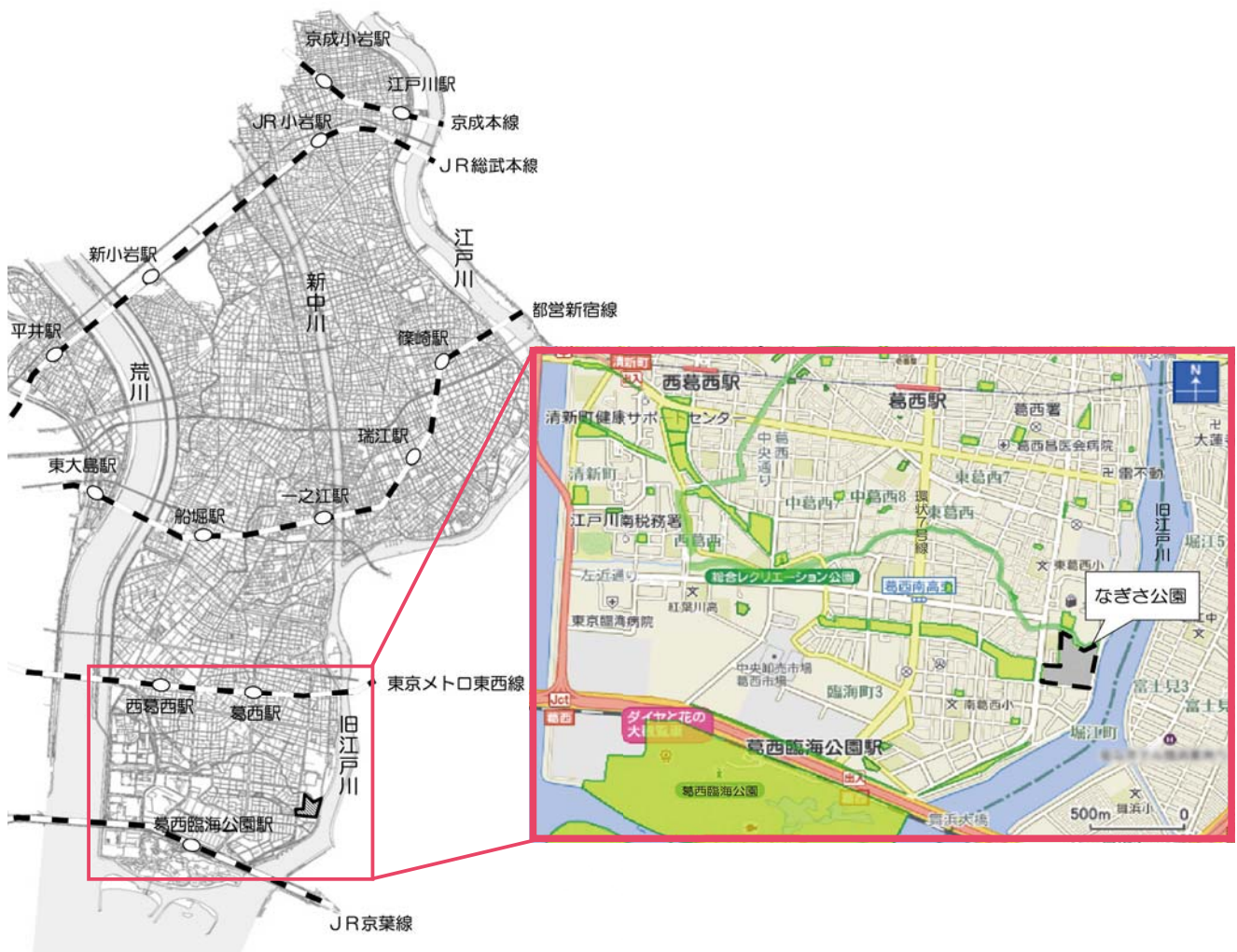


総合レクリエーション公園（なぎさ公園）

所在地：江戸川区南葛西 7-3-1

アクセス：東京メトロ東西線「葛西駅」より バス10分（下車後 徒歩5分）

主な施設：展望の丘、ツツジ山、なぎさポニーランド、
野球広場、運動広場、ゲートボール場





なぎさ公園内の写真



展望の丘
丘上から旧江戸川が望めます。



ツツジ山
春には55種10,000株が咲き誇ります。

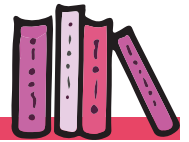


なぎさポニーランド
自然豊かな環境で馬と触れ合えます。





施設の敷地など



本施設の予定位置は 内とする。

なお、合わせて動線部分や周辺部分などについても改修等を検討する。

名称	なぎさ公園
面積	63,028㎡
開園年月日	平成5年4月1日 開園





施設の敷地などの写真



① 展望の丘(草地広場)



② 遊具広場



③ ゲートボール場



④ パノラマシャトル





設計パートナーについて



この基本構想の公表後、江戸川区議会の議決を得て、基本設計・実施設計を行う設計パートナーを公募します。

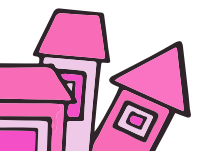
設計パートナーは、角野栄子氏 及び 区とともに、基本構想の内容を具現化する仕事を担うものとしします。

プロポーザル実施要項など詳細については、区ホームページにて令和元年10月下旬に公表を予定しています。



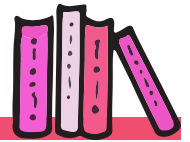


V 広報・PR





わくわくイベント

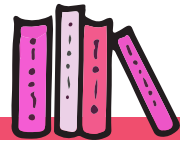


2022 年度（予定）の開館に向けて、区内で角野栄子氏による関連イベントなどを行い、児童文学館建設の経過報告と PR を行いつつ、児童文学館オープンを楽しみに待つ「わくわく気分」を高めていきます。

年	イベント等(案)
平成 31 年 (2019 年)	区民栄誉賞・記念講演会 (1/23 実施済)
令和 2 年 (2020 年)	講演会 (子ども未来館 10 周年 4/29)
令和 3 年 (2021 年)	企画展 (篠崎文化プラザ・7 月～8 月)
令和 4 年 (2022 年)	児童文学館オープン記念講演会

※上記のほかにも、角野作品にちなんだ出版社主催のイベントなどの積極的な誘致を行っていきます。





さまざまなコンテンツを利用して、情報をリアルタイムに発信、児童文学館開設までの経過を多くの方に知ってもらうことで、児童文学館オープンへの期待を高めます。

- 区公式ホームページ内に児童文学館のページを開設
- 区公式 SNS (Twitter・Facebook・Instagram) の活用
- 広報えどがわ紙面の活用
- えどがわ区民ニュース (ビデオ広報) の活用
- 民間メディアの活用









開設スケジュール



時期	内容		
令和元年度 (2019)	4月	↑ ↓ ● ● ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑	
	5		
	6		基本構想の策定
	7		
	8		
	9		基本構想の公表
	10		
	11		「建築&展示&造園」基本設計・実施設計パートナー公簿
	12		
	1		
	2		
	3		
	令和2年度 (2020)		4月
5			
6		「建築&展示&造園」 基本設計・実施設計	
7			
8			
9		管理運営方法検討	
10			
11			
12			
1			
2			
3			
令和3年度 (2021)		4	↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑ ↓ ↑
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12	建築&展示&造園工事 各調整・工事発注	
	1		
	2		
	3	開設準備	
	令和4年度 (2022)	4月	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11		開館準備・開館	
12			
1			
2			
3			





VII 検討経過





検討メンバー



●角野氏

児童文学作家	角野 栄子 氏
角野栄子オフィス・アートプロデューサー 児童文学作家	くぼしま りお 氏
角野栄子オフィス・ディレクター	角野 大弘 氏

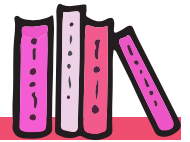
●江戸川区

副区長	新村 義彦
経営企画部長	近藤 尚行
経営企画部企画課長	矢作 紀宏
都市開発部施設課長	梅原 貴之
土木部水とみどりの課長	多賀 美代
経営企画部企画課課務担当係長	藤原 達也
経営企画部企画課企画担当係長	木根 渕 明広
経営企画部企画課企画担当係主査	滝澤 耕平
経営企画部企画課企画担当係	米田 孟正
都市開発部施設課施設第二係	田中 朗
土木部水とみどりの課推進係長	上戸 英明





経過及び検討会議



●経過

日時	事柄
平成30年8月31日	角野栄子氏「国際アンデルセン賞 作家賞」受賞（授賞式：ギリシャ・アテネ）
平成30年12月12日	第4回区議会定例会にて「江戸川区区民栄誉賞表彰条例」可決
平成31年1月23日	角野栄子氏「江戸川区区民栄誉賞」表彰、記念講演会を開催
平成31年1月30日	平成31年度予算案プレス発表 児童文学館建設を公表
令和元年5月23日	角野栄子氏と児童文学館開設に向けた相互協力・連携の「確認書」取り交わし

●検討会議

会議	主な議題
第1回 平成31年4月4日	基本構想に関する意見集約方法確認と検討
第2回 平成31年4月24日	基本構想に関する意見・提案検討
第3回 令和元年5月23日	基本構想に関する意見・提案検討
第4回 令和元年6月13日	基本構想（案）に関する意見・提案検討
第5回 令和元年7月9日	基本構想（案）に関する意見・提案検討
第6回 令和元年7月31日	基本構想（案）に関するまとめ



本をひらけば
たのしい世界

かどろえいこ



(仮称)江戸川区角野栄子児童文学館 基本構想
令和元年(2019年)9月

《編集・発行》

江戸川区経営企画部

企画課課務担当係・企画担当係

〒132-8501 江戸川区中央1-4-1

03(5662)0102

・

有限会社角野栄子オフィス 管理部

〒133-0051 東京都江戸川区北小岩2-21-12

・

イラスト：くぼしまりお氏